した。さは言ふまでもなく、他に施すべき術がなくなつたの
で、仕方なく振りあげた鉈を下したのであるが、争議団は
之に対して、内部的前提を防遏する為め廿一日九ヶ所に家族
慰安会を開催し、団員の家族を慰安し激励した。

會社の蠢動

既に述べた如く、會社は全く行詰つてどうする事も出来な
い有様となり。四苦八苦の中に日を暮して一物の収穫もな
い中に猶予の十日は来てしまつたのである。そこで彼等
は、大鉈を振下し、廿日七、三五名に対し、解雇通牒を発
した。一方三週目の新工員募集を広告し、争議団に対
抗する気勢を示したが、もう三週を経過して居る愚策であ
るから誰も耳を傾ける者はない。

反動勢力の動き

十三日に国粋會が引あげる間もなく、十六日夜赤尾敏一派の
建國會が来襲した。そして彼等は、連りに争議団に喧嘩を
売つて来た。たとへば、「赤の労働組合を葬れ」と云ふポスター
を貼布するかと思へば、「総同盟ダラ幹の奸策にダマされるな」
と云ふビラを撒布したりなど、そこで、我が争議団は廿日
夜其のビラ撒きに出た四名を争議団本部に連行してギユー
／＼させた上に、更に左の如き詫証文を取つて追ひかへし、
翌廿一日には彼等の本陣、和泉屋旅館に彼等を襲撃して、看
板、綱領、主張、幕等を破棄し赤尾以下の幹部をして
平身低頭せしめた。　此襲撃について野口三郎君等五名
検束された。
此事件は新聞紙に大々的に報じられたので、各組合に非常
な心配をかけたので、こゝに深謝の意を表します。